

## ポイント①

# 高い断熱性と気密性

複雑な構造の住宅も現場吹付け発泡だから隙間なく施工できます。また自己接着力によって躯体との間に隙間ができにくく、長期間に亘って優れた気密・断熱性を維持します。高い気密・断熱性をもつ住宅は省エネルギー効果が高く、建物の暖冷房に要する光熱費を削減します。



### 見て納得!性能データ①

## 厚み比較

アクアフォームは無数の細かい連続気泡の中に多量の空気を含んでいるため、他の断熱材に比べて優れた断熱性能を発揮します。

項目	断熱材品種	熱伝導率 w/mk	住宅金融支援機構工事仕様書断熱区分	相当断熱厚み割合
アクアフォーム	建築物断熱用吹付硬質ウレタンフォームA種3	0.034	D	100
フェノールフォーム	フェノールフォーム	0.020	F	58
繊維系断熱材(グラスウール)	10K	0.050	A-2	147
	16K	0.045	B	132
	24K	0.038	C	112

※熱伝導率とは熱の伝わりやすさを表すもので数値が小さいほど断熱性に優れています。  
 ※(独)住宅金融支援機構監修の工事仕様書の断熱区分はA~Fの6段階でFに近くなるほど断熱性に優れています。  
 ※(独)住宅金融支援機構の断熱材品種は区分Cですが、性能値によりD区分となります。  
 ※相当断熱厚み割合とはアクアフォームを100とした場合に同等の断熱性を確保するために必要な厚みを表します。

### 見て納得!性能データ②

## 断熱性能

総合的にみてもアクアフォームの優れた性能はお分かりいただけます。

アクアフォームの性能		
断熱性能 JIS A9526	熱伝導率w/mk	0.034
透湿性能 JIS A9526	透湿率 ng/m・s・Pa	16.6
燃焼特性 JIS A9526	燃焼長さ	60mm以下
	燃焼時間	120秒以内

※性能値は測定値であり、保証値ではありません。

### 見て納得!性能データ③

## 気密性能

住宅の躯体に直接吹付け発泡施工するアクアフォームは隙間なく一体化した断熱材構造で、優れた気密性を発揮します。また、他の断熱材にはない自己接着力を持っています。

相当隙間面積C値 (cm <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> )
2.0以下※

※住宅の省エネルギー基準に基づいてアクアフォームを施工した場合

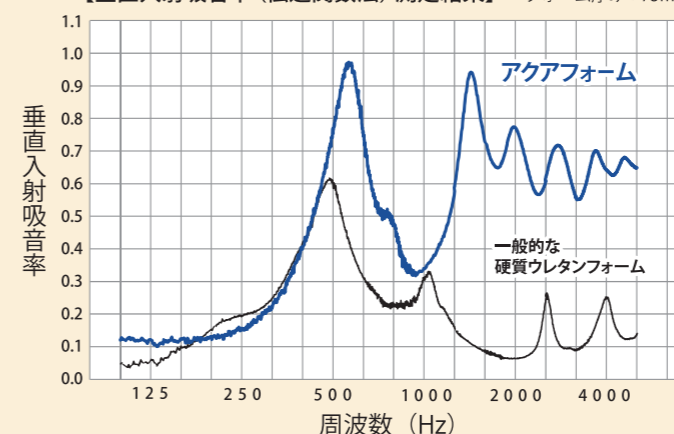
## ポイント②

# 静かな住空間・吸音性能

アクアフォームの細かな連続気泡構造は吸音性にも優れています。高い気密性により外部の騒音や内側からの生活音の漏れを軽減するとともに、アクアフォームの細かな気泡構造が音をスポンジ状のフォーム内に拡散します。外からの騒音の侵入や、生活音の漏れを気にすることなく快適に暮らしていただけます。



【垂直入射吸音率 (伝達関数法) 測定結果】 フォーム厚み: 75mm



柔軟性に富んだアクアフォームは微細連続気泡構造で、一般的な独立気泡構造と比較し、吸音性に優れています。

## ポイント③

# 換気システムの効率化

隙間から漏れる空気は漏気といいます。建物に隙間が多いと、風や湿気が外から建物の中に入ってきます。建物を効率的に換気するには、まず高い気密性をもった住宅を造る必要があります。高い気密性があったら始めて、効率的に、計画的に建物を換気することが可能なのです。24時間換気システムとの組み合わせで、アクアフォームは健康的な空気環境を造りだします。

## ポイント④

# 施工後の気密測定(有償)

日本アクアでは現場発泡、現場施工で隙間のない断熱工事を実施しています。また施工後に有償で、気密測定を実施。安定した品質の断熱工事を実施しておりますので安心して暮らしていただけます。

